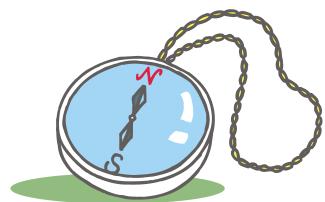


羅針盤



第 11 号

令和7年6月30日（月）

◆ 「ノーチャイムデー」

本校でも、昨年度より生徒会が主体となって全校生徒の皆さんに呼びかけて実施された、授業の開始や終了のときにチャイムを鳴らさない「ノーチャイムデー」の取り組みが、今週の7月4日（金）に行われる予定となっています。生徒の皆さん自身が、チャイムに頼ることなく、自らの意識で時間管理をして行動することが大きな目的の一つです。生徒の皆さん一人ひとりが、時間を意識して行動する力を身につけることができるか、また、「時間の大切さ」といったものを改めて実感することができるか、そして、互いに声を掛け合って行動することができるかといったことが試されるはずです。「時間をしっかりと守る」といった意識は、当然のことながら、社会で働くうえでは欠かせないこととなるはずです。1時間目や2時間目などの開始は今からですよ、とチャイムを鳴らして教えてくれるのは学校だけです。一步社会に出れば、時間管理は当然自分でするものだということになっています。自分自身が主体となって意識を変えていかなければ、「時間の大切さ」に気づくこともなければ、「時間を守る」ことの意味を理解することさえできないでしょう。城陽中学校では、取り組みの継続として、今年度も今週の7月4日（金）の一日のみの実施としていますが、全国の各市町村にある中学校の中には、毎週水曜日を「ノーチャイムデー」としている学校もあれば、学校の基本生活をノーチャイムとして位置づけて一年間を通じて毎日「ノーチャイム」（ノーチャイム制の導入）としている学校もあるそうです。いずれの学校も、時間を守ることの意識が向上し、お互いに声を掛け合う場面が増え、生徒一人ひとりの自主・自立の精神が構築されてきているそうです。本校の生徒の皆さんにも、「ノーチャイムデー」の取り組みを通じて、これまで以上に「時間を守ることの大切さ」について再認識するとともに、学校生活がより有意義なものとなり、一人ひとりの自主・自立の確立といったものが更に構築されていくことを期待しています。



◆ 「七夕」

七夕は「たなばた」または「しちせき」とも読み、古くから行われている日本のお祭り行事で、一年間の重要な節句をあらわす五節句のひとつです。これは、中国の乞巧奠（きっこうでん）という、手芸や裁縫が上達するようにと星に願う行事が旧暦の7月7日に行われていましたが、この行事と、織姫と彦星が年に一度、天の川を渡って会うという伝説とが結びついて、日本に伝わって七夕という伝統的な年中行事として定着することとなりました。現在の七夕という二文字は、

「棚機（たなばた）」という織り機がその由来となっているようで、当て字として読まれているそうです。平安時代には、宮中行事として七夕行事が行われるようになって、梶（かじ）の葉に和歌を書いて願いごとをしたことを始まりとして、現在でも、梶の葉のかわりに五つの色の短冊に色々な願い事を書いて笹竹につるし、星に祈るお祭りとして定着しています。天に向かってまっすぐ伸びる笹は、願い事を空の織姫や、彦星に届けてくれると考えられていたからだそうです。

